

内視鏡的粘膜下層剥離術のオリエンテーションの効果

光学医療診療部

○ 佐木 寛子 松村 真智子 山崎 美恵 鍋島 曜子
田村 智 大川内 孝治

〔研究目的〕

内視鏡的治療に対するイメージの湧かない患者の不安を軽減するため、写真を取り入れたオリエンテーションを実施し、その有効性を明らかにする。

〔研究方法〕

胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (endoscopic submucosal dissection : 以下ESD) を初めて受ける患者に、ESD当日看護師 (内視鏡技師) が、写真を取り入れた術前オリエンテーションを行い、ESD後1週間以内に、オリエンテーションについての聞き取り調査を行った。その内容を類似項目に沿ってカテゴリー化した。

〔倫理的配慮〕

1. 対象者の選択は医師の紹介を前提とし、研究チームの介入により治療に影響を及ぼす可能性のある者を除外した。面接日には対象者の心理・身体状態を医師・看護師に確認した上で面接した。
2. 対象者には予め研究の趣旨と計画内容、自由参加であることを説明し、面接内容は秘密保守、研究以外に使用しないことを約束した上で、承諾をとった。

〔結果〕

対象者は内科病棟に入院中の患者10人 (男性8人、女性2人) で平均年齢71.5才であった。聞き取り調査では、「写真によるオリエンテーション用紙は見やすかった」が10人、「写真を使つての説明はわかりやすかった」が9人、「イメージができ不安が軽減した」が8人、「イメージはできたが不安は変わらなかった」が1人、「イメージもできず不安も軽減しなかった」が1人という結果が得られた。

〔考察〕

太田ら⁴⁾の報告にもあるように、治療に対し具体的にイメージすることで不安の軽減につながると考えられる。これには、「写真を見せてもらいながら、看護師さんがずっとついていてくれると言ってくれたから、写真が治療中浮かんでました。」という言葉も聞かれており、目で見えるものからは、情報が多く得られると考えられる。

しかし、2人の患者は、治療に対する不安が容易にとれなかった。このことは、今橋ら³⁾の報告 (表1) にもあるように、未経験の治療に対する不安、疾患に対する不安があったためと考えられる。

この2人の患者の言葉より抽出された未経験の治療に対する不安、疾患に対する不安を今後の看護に生かして行くことも重要であると考え。このためには、患者の背景を十分に理解した上で、気持ちを汲み取りながらの温かい言葉かけを行う、受付に絵や植物を飾り、音楽を流す、など患者がリラックスできる環境づくりに努める必要があると思われる。

〔結論〕

今回の結果から、写真を取り入れたオリエンテーションによってESDを受ける患者の治療に対するイメージ作りができ、患者の不安を軽減させる効果がみられた。

しかし、患者は未経験の治療に対する不安、疾患に対する不安をもっているため、リラックスできるような環境作りにも努める必要がある。また患者によっては治療当日ではなく、治療が決定した時からの写真によるオリエンテーションを考えていくことも大切である。

表1 内視鏡的胃粘膜切除術を受ける患者の苦痛(今橋ら)

1. 術前より続く不安
・未経験の治療に対する不安
・疾患に対する不安
2. EMR中の身体的苦痛
・内視鏡操作に伴う苦痛
・治療進行に伴う苦痛
・長時間の治療に伴う苦痛
・環境がもたらす苦痛
3. EMR中の心理的苦痛
・想像するだけの進行状態
・意思の伝達ができない苦痛

参考文献

- 1) 新井美智子：EMRの術前・術中の看護，消化器内視鏡ケア，日総研，123-128，1998.
- 2) 小山恒男他：胃EMRの適応拡大・大きさからみて，胃と腸，37(9)，1155-1161，2002.
- 3) 今橋清子他：内視鏡的胃粘膜切除術を受ける患者の苦痛，高知大学医学部附属病院臨床看護研究集録，10，98-101，2004.
- 4) 太田あゆみ他：検査内容に沿った写真と絵によるよりわかりやすいオリエンテーション用紙作成を試みて，技師会報，78-79，2003.
- 5) 北野由紀他：ITナイフ法からみた術前オリエンテーションの有用性，技師会報，41-42，2004.
- 6) 井上智江子他：患者サービス強化に向けての業務改善，技師会報，36-37，2004.

平成17年5月28日 第54回 日本消化器内視鏡技師研究会（東京）
平成17年9月4日 第3回 四国消化器内視鏡技師研究会（高知）にて発表